

新聞をあまり読んでいなかったので、新聞の世界を知れて嬉しかったです。記者は、大変で忙しけど、その分たくさんいいところがあるのを知ることができました。風間さんの話をきて感じたことは、諦めずにやりたいことに向かっていく大切さです。私も夢があるので自分が無理ではなのではないか、ほんとにこの道で良かったのだろうか、と考えてしまい半分諦め状態です。なので、風間さんの辛いときも頑張る心に胸が打たれました。何事にも挑み、チャレンジしようと思いました。もう一つ知れたことは、失敗してもいいということです。私は、失敗とはしてはいけない存在で、完璧じゃないといけないという考えていたので、風間さんがおえらいさんの前で失敗したという話をきいて、とても驚きました。そのことから、失敗して学んでいけばいいと感じることができました。今回今まで、考えたこともなかつた新聞の裏を知ることができて嬉しかったです。新聞を読んでみたくなりました。ありがとうございました。（422）

バッハさんとのインタビューの時に、本来30分話すつもりが英語が話せず3分で終わってしまったというエピソードを聞き、多くの人と関わるために英語を学ぶことが不可欠で、国際的な人間になるべきだと感じた。

様々な人と出会い、話を聞き、その人の人生に触れることで、自分にはできない経験を間接的にすることができ、全国各地を巡り、その地域の特色や伝統を学べる点で、新聞記者という職業はとてもやりがいのある仕事だと感じ、新聞記者になりたいと思った。

また、新聞記者は自分が間接的に経験したことを見聞という道具を通じて、多くの人に届けることができるの、影響力のある仕事だと感じた。

風間記者が下積み時代を何年も過ごし、努力することで夢を叶えたことに感銘を受け、僕も風間記者を見習って、夢を叶えるために努力していきたいと思った。

振り返り

今回、講演会を受けて新聞記者の仕事内容や苦労をたくさん知ることができた。日によって記事の量が違うかったり、スポーツ記事と経済記事の違ったりを知れた。どこの新聞かによってスポーツ記事と経済記事の割合が違うことも初めて知った。讀賣新聞はスポーツ記事が多めだそうで、学生の私達でも興味を持つことができる。話を聞いて私が一番大変そうだと思ったことは、他国での取材だ。言葉や時差ボケ、とても苦労するだろうなと想像がつく。特に時差はとてもきつい。睡眠がなかなか取れず、落ち着けないところがきつそうだ。風間記者のやらかしエピソードは聞いているだけで血の気が引いた。

私の家は新聞をとっておらず、私自身も新聞に興味がなかった。正直、新聞は文字が見るからに多くて、読むの面倒くさいなと思っていた。しかし、中学生になって新聞ノートを書いたり、今回のような講演会があったりなど新聞に触れる機会が多くなった。そして、きちんと読むと意外とおもしろい記事がたくさんあることに気づき、新聞の興味を深めることができた。

新聞記者の仕事がよくわかりました。一番驚いたのが、スポーツ会場などの現場で原稿を書くということです。そしてスポーツ選手と写真を取ることが出来たり、現場に言って試合や選手を直接見ることが出来ることができると初めて知りました。海外と日本での時差のことだったり、記者さんの普段のことも知ることが出来て興味が更に湧きました。普段、記者さんの仕事のことなどあまり考えていなかつたのですが、話を聞いて楽しい仕事だなと感じました。風間記者のエピソードで偉い人に怒られてしまった。というエピソードが個人的に面白かったです。将来何になろうかと思っていたのですが記者という道を選んでみてもとても楽しそうだなと思いました。滅多に聞けない話を聞かせていただいて新たな視点でも考えれるようになります。新聞を読むコツなども知ることが出来てこれから新聞を読むときなど、今回教わったことを活かそうと思います。